

新城新藏資料

— 7 インチ屈折 Sartorius 望遠鏡導入時のドイツ国光学メーカーとの往復書簡 —

北井礼三郎

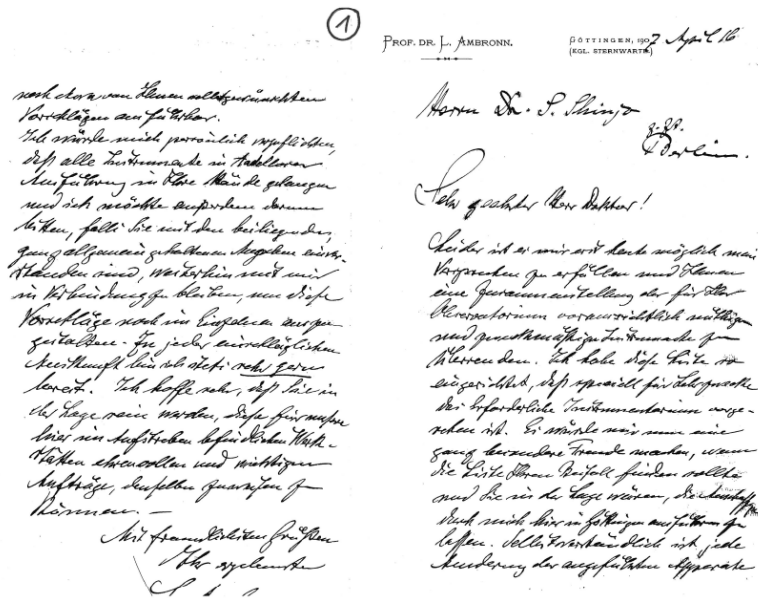
1. はじめに

1910年4月10日に、回帰性のハレー彗星が地球に最接近する天文学的現象が起こった。このハレー彗星を観測すべく、京都大学では、理学部の新城新蔵教授を中心としてその準備作業がなされた。主となった作業は新望遠鏡を導入することであり、1907年ころから調査、メーカーとの打ち合わせ往復書簡の交換がはじまった。望遠鏡は1910年早々に納品されたが、1907-1910年の期間には、望遠鏡導入のほかにも天文機器、物理実験機器、地球物理実験機器の購入等について、新城教授とドイツメーカー、物理機器販売会社との間に合計29通のドイツ語で記された書簡交換がなされた。

これらの往復書簡は京都大学の天文観測の黎明期の様子を明らかにする貴重な史料である。今回それを邦訳して黎明期の全貌を明らかにする助けとすることにした。

2. 往復書簡

往復書簡は、新城新蔵資料（京都大学理学研究科宇宙物理学教室保管）の No.13 ファイルに含まれているものである。書簡は独文で書かれており、一部タイプ文があるものの手書きがほとんどである。たとえば、1907 年のドイツ国 Ambronn 教授から新城教授宛に出されたものが資料 1 である。また、1910 年に新城教授から Sartorius 氏宛に出されたものが資料 2 である。



Kyoto, d. 18. Feb. 1910.

Sehr geehrter Herr Sartorius!

Ihre werthe Zuschrift vom 29. Jan. habe ich eben empfangen und freue ich mich sehr, dass die von uns bestellten Apparate endlich noch in rechter Zeit uns zu- gesandt werden. Ich hoffe nun nur noch dass sie alles rechtzeitig in guter Ordnung, ankommen werden. Wenn dieser Brief von mir Ihnen ankommt, sind die Apparate wohl schon alles abgesandt und Sie würden von London 13350 + 2400 = 15750 Mk bezahlt bekommen haben. Die noch übrig bleibende Summe von 1500 Mk werden wir, wie ich schon Ihnen geschrieben haben, erst im April bezahlen können. Betreffs der Aufstellung der Rechnung möchte ich Sie bitten, sie etwa in folgender Weise in drei Theile anzuferigen:

Datum 29. Jan. 1910

1 Refraktor n.s.w.	M. 10200
1 Universalstrahlente n.s.w.	2650
Versicherung n.s.w.	500
gnc	13350

Datum 29. Jan. 1910

1 Heliostat	M. 2300
Versicherung, Transport n.s.w.	100
Mk	2400

31

Datum d. 10. April, 1910

1 Nebenapparat vom Refraktor n.s.w.	Mk. 1500
-------------------------------------	----------

In gespannter Erwartung, Ihrer Zusendung entgegen, verbleibe ich
hochachtungsvoll

Prof. S. Shinjo,
im phys. Institut der Kaiser-
Universität zu Kyoto.

資料 2

手書き独文をできるだけ正確に読み取るため、宇宙物理学教室ポスドク研究員のドイツ人 Heizeller 氏に、手書き独文を読み取って活字テキストとして電子ファイルにする作業をお願いした。そして、この活字テキストをもとに邦訳を行った。

これらの書簡を時系列で並べて、表 1 に示した。

表 1

年	月	日	通信の向き	連絡内容の概要
1907	4	16	⇒ Shinjo	受注確認(赤道儀、経緯儀)
1908	7	9	⇒ Shinjo	遅延願い(赤道儀、経緯儀)
1909	5	14	⇐ Shinjo	納期 1 年延期許可
		20	⇐ Shinjo	物品発注
		20	⇐ Shinjo	Hartmann マイクロフォトメーター発注
		20	⇐ Shinjo	ガラス管、色ガラス板発注
		25	⇐ Shinjo	エートベツシュ装置、Doppelapparat 督促
		26	⇐ Shinjo	時計、気象観測装置、顕微鏡、ゾンデ気球発注
		26	⇐ Shinjo	ヘリオシュタット発注
		31	⇐ Shinjo	気象地球儀支払い方連絡
	6	7	⇒ Shinjo	受注確認
		10	⇒ Shinjo	正式遅延願い

	16	Sartorius	⇒	Shinjo	ヘリオシュタット受注連絡、価格訂正依頼
7	6	Sartorius	⇐	Shinjo	経緯儀完成、赤道儀完成間近の報に対する返信。支払い手続き連絡。ヘリオシュタット価格上昇了承。
	10	Steinheil	⇐	Shinjo	20cm 凹面球面鏡(曲率 10m)銀メッキ付き発注
	10	Spindler&Hoyer	⇐	Shinjo	電位計アルミ箔、水準器発注
	10	Liebis	⇐	Shinjo	書籍発注
	12	Schatzmeister	⇐	Shinjo	学会費支払い、退会届
	17	Schott & Genossen	⇒	Shinjo	色ガラス板発送連絡
11	30	Suss	⇒	Shinjo	装置輸送日程の早期化依頼
12	8	Toepfer	⇒	Shinjo	Hartmann マイクロフォトメーター計算書
	21	Mechaniker (Suss)	⇐	Shinjo	エートベッシュ装置到着、次期会計年度清算の連絡。
1910	1	3 Sartorius	⇐	Shinjo	赤道儀・経緯儀督促
		3 Spindler&Hoyer	⇐	Shinjo	鏡、レンズ受領確認。揺動振り子装置問合わせ
		3 Fuess	⇐	Shinjo	状況問合わせ、(発注書未着の場合)再発注
		3 Toepfer	⇒	Shinjo	Hartmann マイクロフォトメーター発送連絡
	29	Sartorius	⇒	Shinjo	屈折望遠鏡、ヘリオシュタット発送連絡。請求書承認要求。
	2	18 Liebis	⇐	Shinjo	書籍発注
		18 Sartorius	⇐	Shinjo	赤道儀・経緯儀発送連絡謝辞。経理手続き連絡

3. 通信の内容

上述のように、様々な機器についての連絡、通信がこれらの書簡によってなされている。これを機器ごとに分類して整理した。図 1 には望遠鏡に関するもの、図 2 には物理天文機器に関するもの、そして、図 3 には光学、地球物理学機器およびその他のものを、それぞれ示した。

F. Sartorius との往復書簡 (新城教授 赤字発信青字受信)

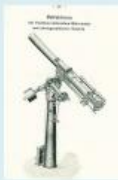
	7インチ屈折望遠鏡	経緯儀	ヘリオシュタット
1907	4月 受注(Ambronn) 	4月 受注(Ambronn) 	
1908	7月 納品遅延願い	7月 納品遅延願い	
1909	5月 遅延1年容認 6月 正式遅延願い 7月 製作順調の報	5月 遅延1年容認 6月 正式遅延願い 7月 完成の報	5月 発注 6月 受注
1910	1月 督促 1月 発送報告 2月 報告謝辞	1月 発送督促 1月 発送報告 2月 報告謝辞	1月 発送督促 1月 発送報告 2月 報告謝辞

図 1

天文・物理機器関連の往復書簡

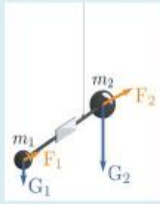
	Hartmannマイクロ フォトメータ (Toepfer)	鏡、レンズ等 (Spindler&Hoyer)	エートヴェーシュ装置 Doppelapparat (?) (Suss)
1907			
1908			
1909	5月 発注	5月 (鏡、レンズ)発注 6月 受注確認 7月 電位計アルミ箔、 水準器発注	5月 督促
1910	12月 請求書 1月 発送報告	1月 鏡レンズ納品 揺動振り子問合せ	11月 輸送の打ち合わせ 12月 納品確認

図 2

天文・物理機器関連の往復書簡

	光学部品	気象実験装置等	その他
1907			
1908			
1909	(Schott&Genossen) 5月 ガラス管、色ガラス板発注 7月 発送連絡 (Steinheil) 7月 20cm凹面鏡発注	(Fuess) 5月 時計、気象装置、顕微鏡、ゾンデ気球発注	(Raimer) 5月 気象地球儀支払い連絡 (Schatzmeister) 7月 学会費支払い、退会届 (Liebisch) 7月 書籍発注
1910		1月 状況問い合わせ	2月 書籍再発注

図 3

4. おわりに

今回の邦訳作業より、1907－1910 年の期間の観測装置や実験装置の導入の様子が明らかになった。ところが、この期間以前にも、また、この期間以降にも同様に各種学術装置・機器が導入されているはずである。実際、小暮先生の報告にあるように、7 インチ望遠鏡の付属観測装置として Steiheil 社から対物プリズムが導入されたはずであり、その導入過程の資料は今回の資料期間にはなかった。今後の課題である。